



2024年8月14日

各 位

会社名 株式会社kubell
代表者名 代表取締役兼社長 山本 正喜
上級執行役員CEO

(コード番号：4448 東証グロース)

問い合わせ先 取締役兼上級執行役員CFO 井上 直樹

ir@kubell.com

過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信の訂正並びに過年度決算における特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、本日、下記のとおり過年度の有価証券報告書等の訂正報告書を関東財務局へ提出するとともに、過年度の決算短信の訂正を行いましたのでお知らせいたします。

また、過年度決算の訂正に関連して、2021年12月期連結会計期間において、特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 過年度決算訂正の理由及び内容

(1) 訂正の理由

当社は、2024年12月期第2四半期の決算作業の過程において、当社連結子会社の株式会社kubellストレージ（旧Chatworkストレージテクノロジーズ株式会社）の2021年12月期の株式取得時に識別した顧客関連資産の計上額に誤りがあった可能性を認識し、当時の会計処理の精査、当時の会計監査人であった有限責任監査法人トーマツとの確認を進める中で、株式取得時の取得原価の配分手続きの過程において、顧客関連資産を過少に計上していたことを確認いたしました。

また、これに関連して、同社の固定資産の減損に係る会計基準の適用について改めて見直した結果、2021年12月期決算において、減損損失の認識が識別され、減損損失の測定を行ったところ、同社のソフトウェアおよび顧客関連資産に減損処理が必要であったことを確認いたしました。

上記のとおり、過年度決算を修正する必要が生じたため、2021年12月期、2022年12月期、2023年12月期の連結財務諸表等を訂正することとしたものであります。（以下、「今回決算訂正」といいます。）過年度の決算短信および四半期決算短信につきましても同様の訂正が発生しておりますが、その影響額については「(4) 訂正による過年度の連結業績への影響額」をご参照ください。

なお、当社は、2024年5月15日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信の訂正並びに過年度決算における特別損失の計上に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、2023年12月期の決算を訂正しております。（以下、「前回決算訂正」といいます。）

(前回決算訂正の理由および内容)

当社は、2023年12月期決算につきまして、有限責任監査法人トーマツによる財務諸表監査及び内部統制監査により適正意見を得て、2024年3月28日に有価証券報告書を提出いたしました。

また、当社は、2024年2月21日付「公認会計士等の異動に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、2024年12月期決算より新たにEY新日本有限責任監査法人による財務諸表監査及び内部統制監査を受けております。

2024年12月期第1四半期の四半期レビューの過程において、EY新日本有限責任監査法人より、当社連結

子会社の株式会社kubellストレージ（旧Chatworkストレージテクノロジーズ株式会社）の株式取得時に識別した顧客関連資産について、2023年12月期決算において減損損失を計上すべきであったのではないかとの指摘を受けました。

その後、有限責任監査法人トーマツとの確認を進める中で、訂正前の財務諸表等においては、顧客関連資産を同社の資産のグルーピングに含めずに減損損失の認識の判定を行っていましたが、同社の固定資産の減損に係る会計基準の適用について改めて見直した結果、顧客関連資産を同社の資産のグルーピングに含めることが適切であり、且つ、同資産グループの主要な資産は、同社のビジネスの特性に鑑みてソフトウェアとすることが適切であると判断しました。その結果、減損損失の認識が識別され、減損損失の測定を行ったところ、顧客関連資産について全額減損処理する必要が生じたため、2023年12月期の財務諸表等を訂正することとしたものであります。

（前回決算訂正時に今回決算訂正の内容に気づかなかった理由）

前回決算訂正は、2023年12月期における固定資産の減損に係る会計基準の適用による固定資産のグルーピング手続きに起因する訂正であったところ、今回決算訂正は、2021年12月期に発生した資本連結手続きに起因する訂正であり、前回決算訂正の際には2021年12月期まで遡り、当時の資本連結手続きに係る会計処理の誤りを識別することができませんでした。

（2）本日付で関東財務局に提出予定の訂正報告書等

有価証券報告書の訂正報告書

- 第18期 2021年12月期（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）
- 第19期 2022年12月期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）
- 第20期 2023年12月期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

四半期報告書の訂正報告書

- 第19期 2022年12月期第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）
- 第19期 2022年12月期第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
- 第19期 2022年12月期第3四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
- 第20期 2023年12月期第1四半期（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）
- 第20期 2023年12月期第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
- 第20期 2023年12月期第3四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
- 第21期 2024年12月期第1四半期（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

内部統制報告書の訂正報告書

- 第18期 2021年12月期
- 第19期 2022年12月期
- 第20期 2023年12月期

（3）本日付で公表した訂正決算短信

決算短信

- 2023年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）
- 2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

（4）訂正による過年度の連結業績への影響額

今回の訂正に伴う過年度の連結業績への影響額は以下のとおりです。

【連結財務諸表】

（単位：百万円）

期間	項目	訂正前 (A)	訂正後 (B)	影響額 (B-A)	増減率 (%)
第18期 (2021年12月期) 通期	売上高	3,372	3,372	—	—
	営業利益	▲688	▲693	▲5	—

	経常利益	▲705	▲710	▲5	—
	親会社株主に帰属する当期純利益	▲696	▲745	▲49	—
	総資産額	5,168	5,145	▲22	▲0.44
	純資産額	3,402	3,379	▲23	▲0.68
第19期 (2022年12月期) 第1四半期	売上高	1,049	1,049	—	—
	営業利益	▲137	▲135	1	—
	経常利益	▲134	▲132	1	—
	親会社株主に帰属する四半期純利益	▲119	▲117	2	—
	総資産額	5,108	5,087	▲20	▲0.41
	純資産額	3,289	3,268	▲21	▲0.65
第19期 (2022年12月期) 第2四半期	売上高	2,150	2,150	—	—
	営業利益	▲247	▲244	3	—
	経常利益	▲248	▲244	3	—
	親会社株主に帰属する四半期純利益	▲229	▲225	3	—
	総資産額	5,301	5,283	▲18	▲0.35
	純資産額	3,290	3,271	▲19	▲0.59
第19期 (2022年12月期) 第3四半期	売上高	3,312	3,312	—	—
	営業利益	▲474	▲468	5	—
	経常利益	▲471	▲464	6	—
	親会社株主に帰属する四半期純利益	▲445	▲439	6	—
	総資産額	5,135	5,119	▲16	▲0.31
	純資産額	3,073	3,056	▲16	▲0.54
第19期 (2022年12月期) 通期	売上高	4,593	4,593	—	—
	営業利益	▲719	▲711	7	—
	経常利益	▲724	▲715	9	—
	親会社株主に帰属する当期純利益	▲687	▲678	8	—
	総資産額	5,400	5,386	▲13	▲0.25

	純資産額	2,869	2,855	▲13	▲0.49
第20期 (2023年12月期) 第1四半期	売上高	1,422	1,412	▲10	▲0.72
	営業利益	▲148	▲155	▲7	—
	経常利益	▲150	▲157	▲7	—
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲148	▲154	▲6	—
	総資産額	5,942	5,890	▲52	▲0.88
	純資産額	2,760	2,735	▲24	▲0.90
第20期 (2023年12月期) 第2四半期	売上高	2,924	2,924	—	—
	営業利益	▲428	▲424	3	—
	経常利益	▲431	▲427	3	—
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲422	▲418	3	—
	総資産額	5,886	5,876	▲9	▲0.16
	純資産額	2,558	2,548	▲10	▲0.39
第20期 (2023年12月期) 第3四半期	売上高	4,613	4,613	—	—
	営業利益	▲675	▲670	5	—
	経常利益	▲680	▲674	5	—
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲680	▲674	5	—
	総資産額	5,970	5,962	▲7	▲0.03
	純資産額	2,318	2,309	▲8	▲0.36
第20期 (2023年12月期) 通期	売上高	6,485	6,485	—	—
	営業利益	▲684	▲677	7	—
	経常利益	▲693	▲686	7	—
	親会社株主に帰属する 当期純利益	▲661	▲620	40	—
	総資産額	6,273	6,273	—	—
	純資産額	2,422	2,422	—	—
第21期 (2024年12月期) 第1四半期	売上高	1,934	1,934	—	—
	営業利益	▲13	▲13	—	—
	経常利益	▲16	▲16	—	—

	親会社株主に帰属する四半期純利益	▲43	▲43	—	—
	総資産額	6,160	6,160	—	—
	純資産額	2,408	2,408	—	—

※第21期（2024年12月期）第1四半期決算における連結業績への影響はありません。

2. 過年度決算における特別損失の計上

（1）特別損失の内容

当社連結子会社の株式会社kubellストレージ（旧Chatworkストレージテクノロジーズ株式会社）のソフトウェアおよび株式取得時に識別した顧客関連資産につきまして、固定資産の減損に係る会計基準に基づき回収可能性を検討した結果、2021年12月期の決算において減損損失133百万円を計上することといたしました。

なお、本件につきましては金額的重要性に鑑みて、2024年12月期第2四半期の計上ではなく、2021年12月期決算での遡及修正による計上が妥当と判断いたしました。

（2）業績に与える影響

本件につきましては、「1. 過年度決算訂正の理由及び内容（4）訂正による過年度の連結業績への影響額」に反映しております。

2021年12月期において、減損損失133百万円の計上に対して親会社株主に帰属する当期純損失の影響額が不利差異49百万円となるのは、減損損失を計上した顧客関連資産にかかる繰延税金負債の取り崩しを行っていること、および当期純損失の一部が非支配株主に帰属すること、によるものであります。

また、2023年12月期において、親会社株主に帰属する当期純損失の影響額が有利差異40百万円となるのは、2021年12月期時点で減損損失を計上する訂正を行っていること、および当期純損失の一部が非支配株主に帰属する影響を反映したこと、によるものであります。

なお、本件による2024年12月期の連結業績予想に与える影響は軽微であります。

以上